



高槻市下水道浸水被害軽減総合事業

ゲリラ豪雨対策で、緊急交通路の機能確保！

現在 now

将来 future

インフラ



浸水状況(国道171号)



浸水状況(一般市街地)

平成24年8月 時間最大降雨量110ミリの集中豪雨により床上浸水247件、床下浸水597件の浸水被害が発生

◆雨水貯留施設整備基準

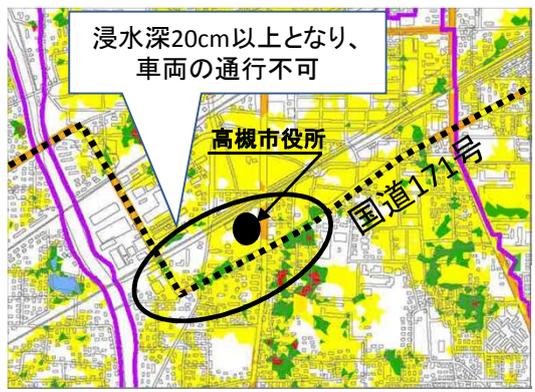
- ・緊急交通路の浸水深を20cm未満とする。
- ・一般市街地の浸水深を45cm未満とする。



平成46年に完了予定

地域

浸水シミュレーション(対策前)



浸水深20cm以上となり、車両の通行不可

凡 例	
	浸水深 20cm未満
	浸水深 20cm以上45cm未満
	浸水深45cm以上

雨水貯留施設を整備。浸水被害箇所を中心に

浸水シミュレーション(対策後)



浸水の解消により車両の通行可能

市民生活の安定化へ

100mm/hを超えるゲリラ豪雨等による浸水被害が発生。浸水被害のリスクは増大傾向。

浸水被害箇所を中心に重点対策地区を定め、雨水貯留施設を整備。

下水道による浸水被害軽減総合事業により、緊急交通路の通行を確保し、防災活動と経済活動の安定化に寄与。

ゲリラ豪雨等でも、緊急交通路の通行が確保されているのは、心強い！

<高槻市消防職員の声>

